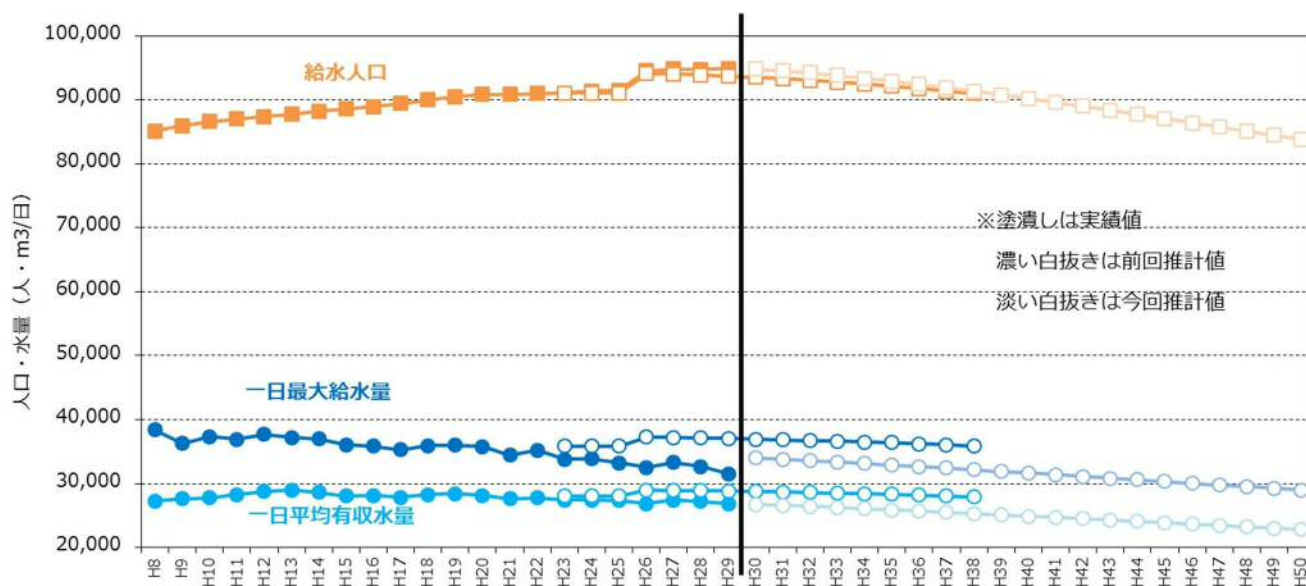


## (2) 事業経営

12

### 水需要の見通し

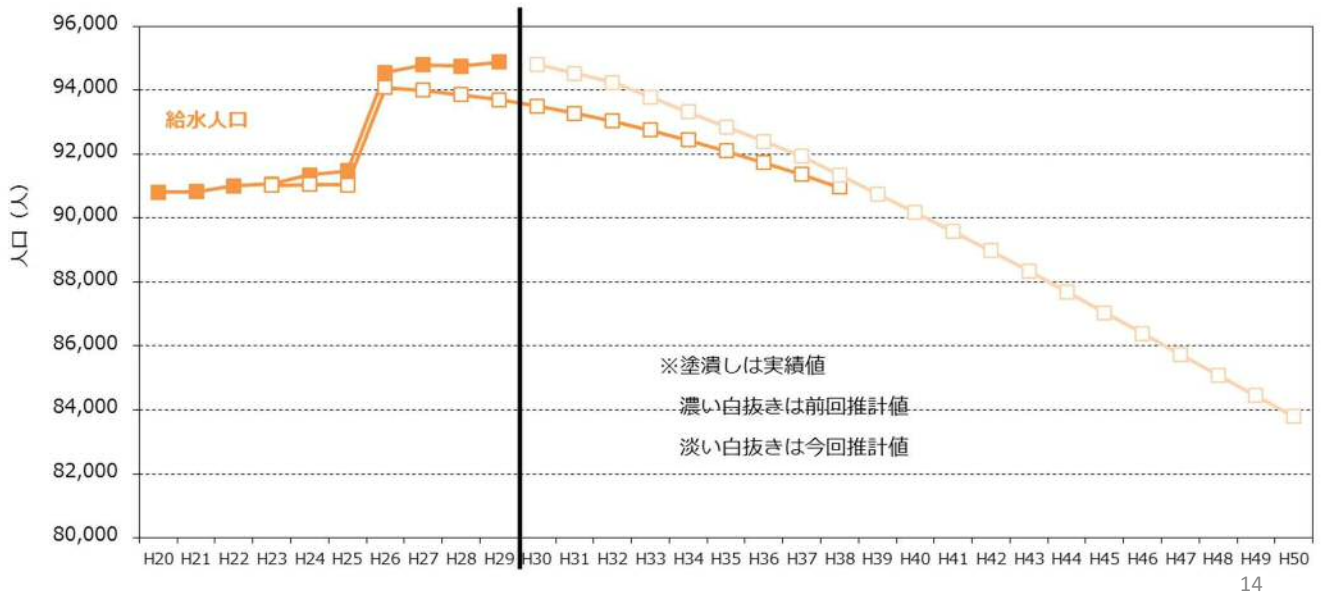
- ✓ 近年の実績値にもとづいた予測
- ✓ 人口、水量ともに**減少傾向は継続する見通し**



13

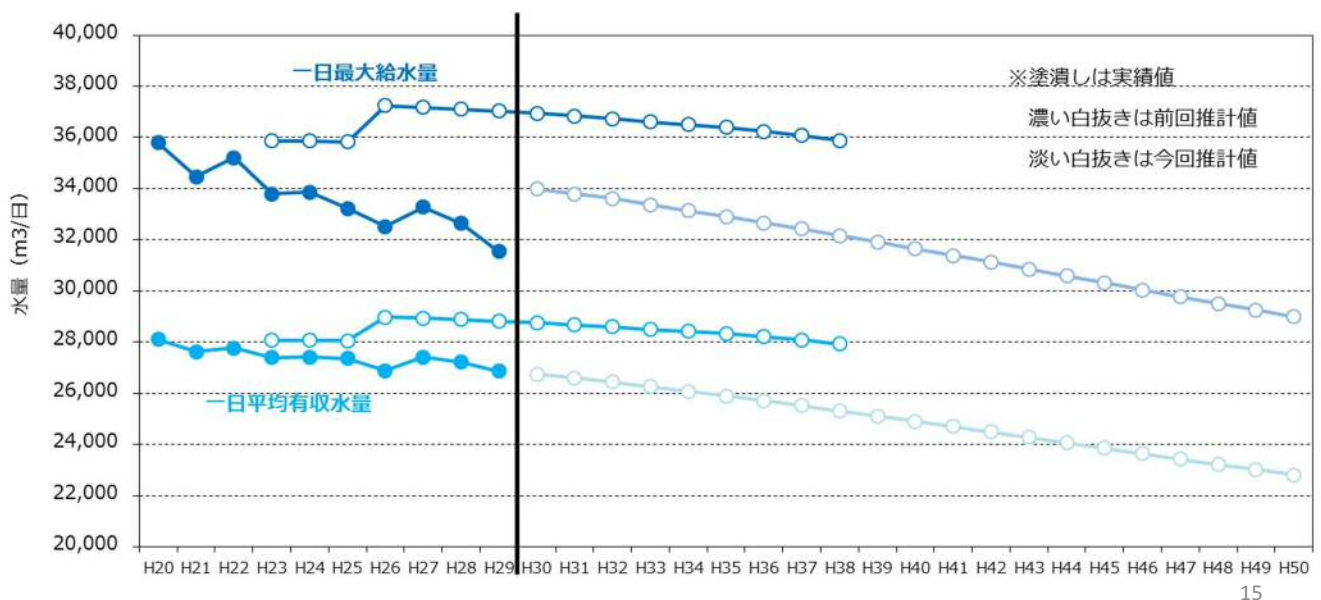
- ✓ 給水人口の推計は、国立社会保障人口問題研究所の最新の推計結果（平成27年国勢調査に基づく平成30（2018）年推計）

→コーホート要因法による推計



- ✓ 有収水量は、用途別（生活用、業務営業用、工場用、その他）に予測

- ✓ 一日最大給水量は、有収水量にもとづいて、有収率と負荷率による予測



## ✓ 有収率とは

給水量に対して、料金収入となる水量（有収水量）の割合のこと

→ここでは、近年実績から93.8%と設定

## ✓ 負荷率とは

一日平均給水量と一日最大給水量の比率のこと

→ここでは、過去10年間の最低値である83.9%と設定

→記録的な猛暑であった平成22年度の値

16

## 水需要の減少に伴う影響

✓ 一日平均有収水量は、今後10年間で2,000m<sup>3</sup>/日、次の10年間でさらに2,000m<sup>3</sup>/日減少する見通し

✓ 現在の供給単価：約120円/m<sup>3</sup>の場合、

→有収水量が2,000m<sup>3</sup>/日減少すると、

一日24万円、年間8,760万円の減収となる。

17

# 事業費の増加に伴う影響

- ✓ 基幹管路更新事業に新たに着手し、その財源確保のために、新規企業債の発行
  - 事業費の約50%
  - 利率：0.6%で30年償還（H29実績）
  - 次の世代のための投資であるが、負担が残る。

18

- ✓ もし、やるべき事業をやらないと、
  - 古い施設や設備、管路が増加して。。。
  - 耐震性能が低いままで。。。



老朽化した配水管からの漏水  
(横浜市水道局HPより)



(写真:大阪広域水道企業団提供資料)

土木学会関西支部報告会

神戸大学鋤田准教授資料より

19